

漁場の環境変動が魚類養殖に及ぼす影響—II

～漁場による水温動向の違い～

◆三重県の熊野灘沿岸では複雑に入り組んだ湾を利用して魚類養殖が盛んに営まれています。それぞれの湾では水深や奥行き等が異なることから、水温等環境面での違いがあると推測されますが詳細は明らかになっていませんでした。



◆養殖漁場の水温は、養殖を行う魚種の選定や養殖魚の成長、疾病の発生等に大きな影響を及ぼすことから、それぞれの漁場の水温動向を明らかにしておくことは非常に重要です。

◆そこで、魚類養殖が盛んに行われている4つの湾の養殖漁場で詳細な水温測定を実施し、各漁場における水温動向を調査しました。



□調査地点と調査の方法

- ▶水温調査を実施した漁場(湾)は、迫間浦(五ヶ所湾)、錦(錦湾)、引本浦(尾鷲湾)、三木浦(賀田湾)です。
- ▶それぞれの漁場の養殖筏に自動で水温を記録する水温計を吊り下げ(水深2m)、2時間おきに測定を行いました。

□水温解析の結果

- 各漁場における月間平均水温の推移から、迫間浦は他の漁場より冬季水温が低く、夏季水温が高い傾向が見られました(図1)。
- 三木浦は冬季水温が相対的に高く、夏季水温が低いことから、冬季と夏季の水温差が最も小さい漁場と言えます。
- 引本浦は迫間浦と三木浦の中間の値でした。錦では水温計の不調から十分なデータを得ることができませんでしたが、引本浦に似た傾向と推察されます。
- 各漁場の内湾度※は、迫間浦で大きく、三木浦で小さいことから(表1)、漁場間で見られた水温動向の違いは内湾度の違いによるところが大きいと考えられます。

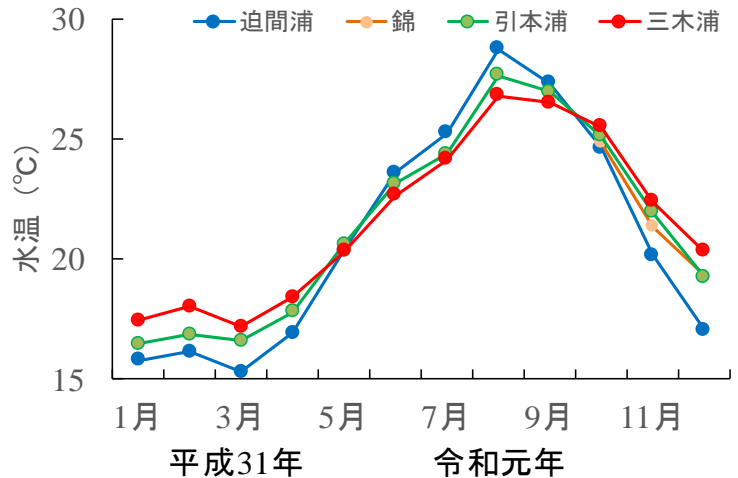


図1 魚類養殖が盛んな4湾の月間平均水温の推移 (平成31年～令和元年)

表1 水温測定を行った漁場の内湾度

漁場	迫間浦	錦	引本浦	三木浦
内湾度	3.9～7.2	0.4～1.9	3.5～5.4	0.7～0.9

横山ら(2002)

水温調査の結果、漁場間で水温動向に大きな違いがあることが確認されました。近接する漁場の間でも地形によって水温が大きく異なる可能性があります。安定して魚類養殖を営むために漁場の水温特性を把握しておきましょう。



三重県水産研究所 尾鷲水産研究室

Mie Prefecture Fisheries Research Institute Owase Branch

〒519-3602 尾鷲市天満浦字古里215-2

TEL (0597)22-1438

FAX(0597)22-1439

(2020年3月発行)